

【 第 144 回 海外旅行 イギリス 5 泊 7 日の旅 】

～大都会ロンドンとイングランドー美しい村を巡る～

(羽田発日本航空利用)

イギリス今昔物語、その見どころ！

予告編



(アーリントン・ロウ、コッツウォルズ地方バイブリー)

イギリスは明治維新の際に我が国がお手本にした国の一つ、大英帝国連邦の宗主国。長い過去の歴史とEUに飲み込まれずに独自色を出したい現在の両面を持っています。

昔はスーツの生地、英国製バージン・ウールといえば最高級品でお値段も最高で手が出ませんでした。就職しても新人はお金が貯まるまで学生服のままだった時代があります。上の写真はそのウールの原料、羊毛を刈り取っていた場所です。「イングランドー美しい村」と言われるバイブリー。この素朴で牧歌的で美しい村を始めとするコッツウォルズ地方に、今では世界中から年間 38 百万人の旅行者が訪れます。東京の全人口の 3 倍の人が訪れるのには、何か理由があるに違いありません。



都内に近い羽田空港から直行便の日本航空 43 便 11:20 発を使ってロンドン、ヒースロー空港を目指します。機材はボーイング 777-300ER の予定です。双発機の中では世界最大。大きなエンジンと大きな機体を支えるために主脚 1 本に 6 個のタイヤが付いているのが特徴です。日本航空ですから機内は日本。「お客様が一番楽しいイギリス旅行」を狙っています。

(1) ロンドン、ヒースローに到着すると現地は 15:50 です。入国審査を終えてホテルに向かいます。



4 ツ星ホテルのヒルトン、ケンジントンです。このホテルは初日一泊と後半に 2 連泊します。



室内の様子です。歯ブラシと室内スリッパはありません。Wi-Fi は簡単なパスワードの入力で無料で使えました。アイロンと冷蔵庫、ドライヤーもあります。

2日目

ロンドン→オクスフォード→チェルトナム

【 ロンドン 】

《ウエストミンスター宮殿》



ウエストミンスター宮殿はイギリス国会が議事堂として使っている建物です。勿論世界遺産です。ロンドン観光のかわきりに訪れます。但し、この時計塔(ビッグ・ベンは時計塔の鐘のことです)は現在工事中のため白いシートに覆われていて見えませんのでご承知置き下さい。

《バッキンガム宮殿》

衛兵の交替式



バッキンガム宮殿の衛兵の交替式はロンドンの大人気イベントです。1日おきに行われるのですがスケジュール発表は直前の1ヶ月前、緊急の警護活動があると中止になってしまいます。ロンドンに滞在している時間をぬってご案内します。

また上の写真は交替式の前の軍楽隊付き分列行進ですが、宮殿内交替式は大混雑のため、こちらを目指します。更に上記の理由のためご案内できない場合も考えられますのであらかじめご承知置き下さい。



【 オクスフォード 】

《ブレナム宮殿》

ブレナム宮殿は第2次世界大戦中イギリスの首相を務めたウィンストン・チャーチルが生まれたチャーチル家の居城です。



庭の中に湖があるという規模の大きさに驚かされます。1704年のスペイン継承戦争で侯爵ジョン・チャーチルがアン王女から贈られた領地です。上の写真の場所から振り返ると下の写真の光景になります。



湖の畔に宮殿が建っているのではなく、庭の中に湖があります。湖の森の遙か先まで庭ですから。

【 チェルトナム 】

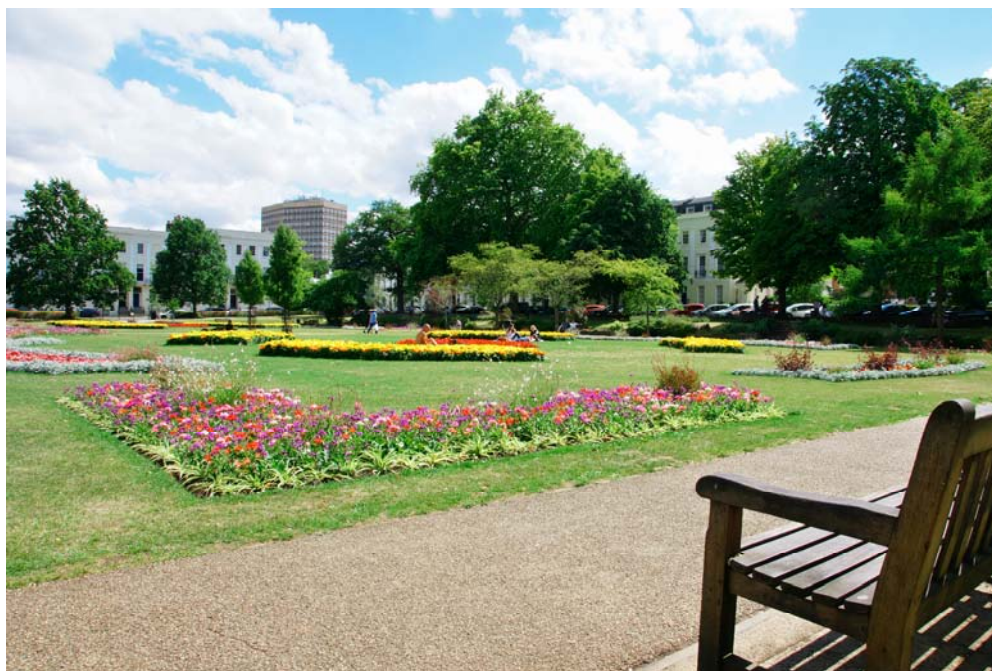


チェルトナムはコッツウォルズ地方の西隣にあり、バイブリーやボートン・オン・ザ・ウォーター等のコッツウォルズの村に入っていく玄関口です。羊毛の集積地でもありました。

《 キーンズホテル、チェルトナム 》 第1班



チェルトナムの中心地にある「クィーンズホテル」は街へのアクセスが便利のため人気のホテルです。10月出発の第1班はこちらに宿泊します。



ホテル前の公園です。チェルトナムには沢山の花が咲いていました。



《 ダブルツリー・バイ・ヒルトン・チェルトナム 》 第2班



ジョージア様式のマナーハウスの「ダブルツリー・バイ・ヒルトン・チェルトナム」はゴルフコースの景色を望む美しい庭園内にあります。11月出発の第2班はこちらに宿泊します。これら2つのホテルはどちらも4つ星のホテルです。1、2班とも2連泊します。

3日目

コッツウォルズ地方

(1) ボートン・オン・ザ・ウォーター

いよいよコッツウォルズ地方に入っていきます。ボートン・オン・ザ・ウォーターは「コッツウォルズのベニス」と呼ばれるほど町を流れるウインドラッシュ川と結びついた景観を持つ美しい町です。



小さな規模の町ですが、4千人の人口を抱えます。リタイアしたらここに住みたいという願いを持つ人が多いそうで人気が高く、不動産価格は上昇の一途とか。まあそんな下賤なことを言っていないで川辺に並ぶベンチに腰を掛ければ、水の流れと共に静かに時は流れていきます。



町には沢山のお土産店、カフェ、小さな宿屋等が並ぶのでも有名です。

(2) バイブリー



バイブリーは 19 世紀に詩人・芸術家・思想家のウィリアム・モリスが「イングランドで最も美しい村」と評価して大人気になりました。この予告編最初のページの写真アーリントン・ロウは 14 世紀、日本では鎌倉幕府の時代からの建物です。羊毛の刈り取り場所として始まり、そのため屋根がありませんでした。やがて屋根を付けて羊毛の倉庫として使われ、その倉庫に壁を付けて職人の宿舎になったのです。この小さな石灰岩の建物は源・足利から戦国時代、信長・秀吉・家康の時代、江戸・明治・大正・昭和、第 2 次世界大戦の時もずっとこの小川のほとりにひっそりと建ち、人々の生活を支えていました。600 年以上たっていますから屋根は波打っています。それでも家々は今も使われ、バイブリーの村はコッツウォルズ屈指の人気を誇ります。

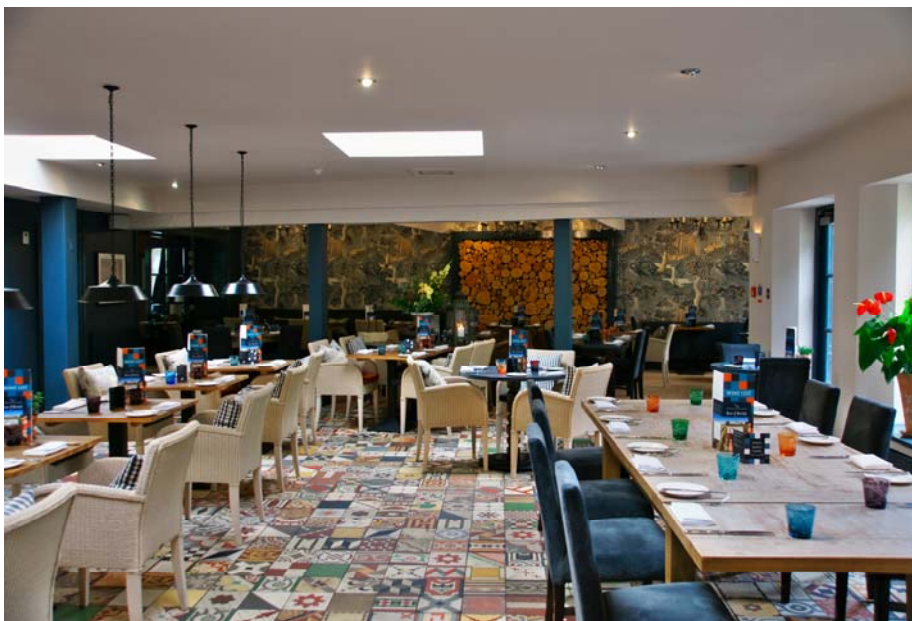
(3) スワンホテルで昼食



おそらくそのバイブリー人気の一端を担っているのがこのホテル。「スワンホテル」です。小規模ですが 4 つ星ホテル。環境を保護するためにホテル周辺のコルン川の漁業権を独占し、川そのものも

所有しています。自然を守るには自分で所有しないと無理という考え方に強い意志を感じます。このホテルに泊まりたいと思う英国内外の旅行者は多いのですが予約を取るのは至難の業、しかも客室22室では団体旅行の受け入れは難しいのだそうです。

「ランチかお茶ならご利用いただけますよ。」 「ええっ！ホントですか？」
というわけで今回の旅行ではスワンホテルで昼食を食べます。急に元気が出てきました。



レストランの様子です。建物外壁からはなかなか想像できないほどおしゃれです。



ホテルの隣の鱒養殖場からの鱒。お腹にずしんときます。メニューを検討中です。イメージとしてお考え下さい。

(4) マナーハウス、「エレンバラ・パーク」で正式のアフタヌーン・ティー



チェルトナムのマナーハウス、「エレンバラ・パーク」です。マナーハウスは簡単に言うと領主様の別荘。カントリーハウスとも呼ばれて今ではホテルやレストランとして利用されています。今回はこの建物のレストランの部分を使って正式のアフタヌーン・ティーを楽しみます。



3人前でこの他にサンドイッチとスコーン2つがあり、食べきれないほどの量です。

4日目

チェルトナム→バース→ロンドン

【 バース 】

(1)ロイヤル・クレセント



バースの高台に建っているアーチ状のパラディオ様式の高級集合住宅です。思わず「何これ？」と言ってしまふほど壮大で驚きます。地上3階地下1階の建物は一部ホテル、30戸の個人住宅です。こんなに大きくて僅か30戸？沢山の窓が向いている先にはこれまた広大なロイヤル・ビクトリア公園があります。



花の見せ方がイギリス式で美しいロイヤル・ビクトリア公園の花壇。勉強になります。

(2) ローマン・バス



バスにこのローマ浴場があったので英語で風呂のことを「バス」というようになったとは有名な話ですが、公衆浴場はイギリスの文化ではなく、聖書時代にイングランドまで勢力を伸ばしていたローマ帝国の文化です。スコットランドはローマ帝国に屈服せず、ローマ帝国はスコットランドとイングランドの境界にイギリス版の万里の長城を築くことになります。それでもイギリス南部にまでローマの力が及んでいたのには驚きます。この温泉は今も湧き出していますが、成分が濃すぎて危険なため、手を入れたりすると注意されますのでお気を付け下さい。



これが地下部分にある温泉の湧水口です。周りの噴出物の色から見て、硫黄と鉄が多いことが推定されます。風呂好きの日本人から見れば、危険なほど成分が濃いとは思えませんし、湯に触りたくなりますが、ここは我慢です。

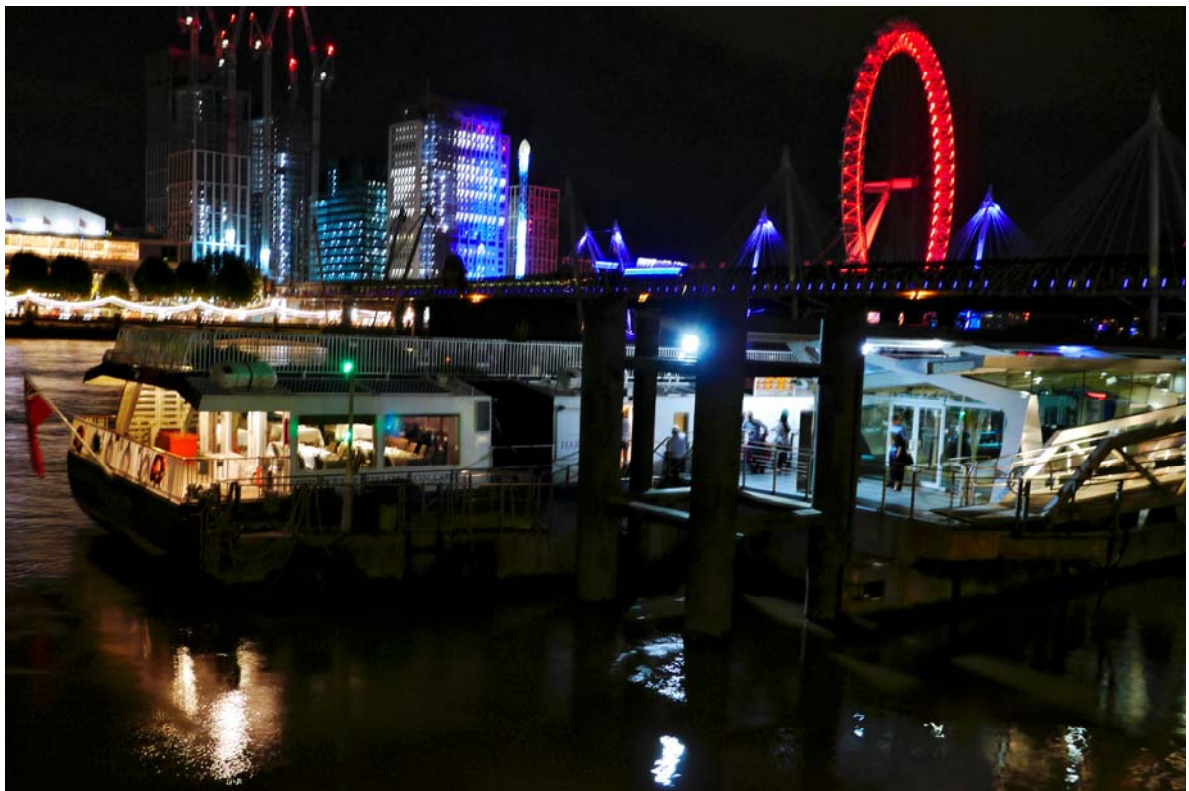
(3) 特急列車乗車



バスからロンドンに帰るのには特急列車に乗ります。1 等車ですが日本のグリーン車クラスです。この車両、日立の車両です。ダイヤが変わる可能性があります、今のところこの車両に乗れる予定です。明治期に日本がイギリスに学んだ鉄道技術、今では日本の技術でイギリスの鉄道を支えるまでになりました。

【 ロンドン 】

《テムズ川ディナークルーズ》



第1班はこの日に、第2班は翌日の夕食にテムズ川をクルーズしながらのご夕食にご案内します。今回のイギリス旅行中唯一のドレスコードが付いた食事です。「スマートカジュアル」はドレスコード中最も緩やかなものですが、カジュアルと言っても日本人が考えるカジュアルとは少し違います。

男性の場合

- ・ジャケット(替え上着)、襟の付いたシャツ(ポロシャツでも構いません)、革靴(スニーカーで革靴に見えるタイプの物でも可)の着用をお願いします。ネクタイは必要ありません。

女性の場合

- ・普通のワンピースまたはツーピース、ストッキング、(つま先が見えない)パンプスを着用して下さい。男性同様スニーカーで革靴に見えるタイプのものでもかまいません。



あまりご心配になる事はありません。これは夏の写真で上着も要らない状態です。テムズ川クルーズのお客様は半数が現地英国人、半数が我々と同じ外国人観光客が多いですから、最低条件さえ守っていれば問題ありません。小編成のバンドが入ったりするクラブで食事をすると言えば一番近いと思います。

ホテルは最初のヒルトン、ケンジントンに戻って2連泊します。

5日目

ロンドン

(1) ウィンザー城



ウインザー城と敷地内で先日ロイヤルウェディングの会場となったセントジョージ礼拝堂の見学を行います。こちらのおみやげ店は比較的品数もあってお勧めです。



ウインザー城の衛兵はテロを警戒して機関銃を携行して巡回しています。ところが観光客は全く意に介すること無く近くに寄って写真を撮ったりしています。この夏の日差しでこの服装は大変。みんな顔が真っ赤になっていますから。

(2) 「銀座おのでら」で和食ランチ



そろそろ猛烈に日本食が食べたくなくなるタイミングです。イギリスで日本食が食べたいというともうロンドンでしか打つ手がないのが実状です。銀座5丁目に本店がある「銀座おのでら」という日本食レストランが昨年ロンドンに出店して美味しいとの評判ですので行ってみました。お店と鰻井と抹茶ソフトクリームです。確かに美味しい。現在メニューを検討中です。

(3) 二階建てバス（アフタヌーン・ティー付き）又はフリータイム（オプション）



ボンネットバス・タイプの2階建てバスでロンドンの町をご案内します。アフタヌーン・ティーでお茶をしながらの見物です。またフリータイムをご希望のお客様にはここでフリータイムを取りますので、お目当てのショッピングやご覧になりたい場所がある方はフリータイムを選択して下さい。フリータイムがオプションです。

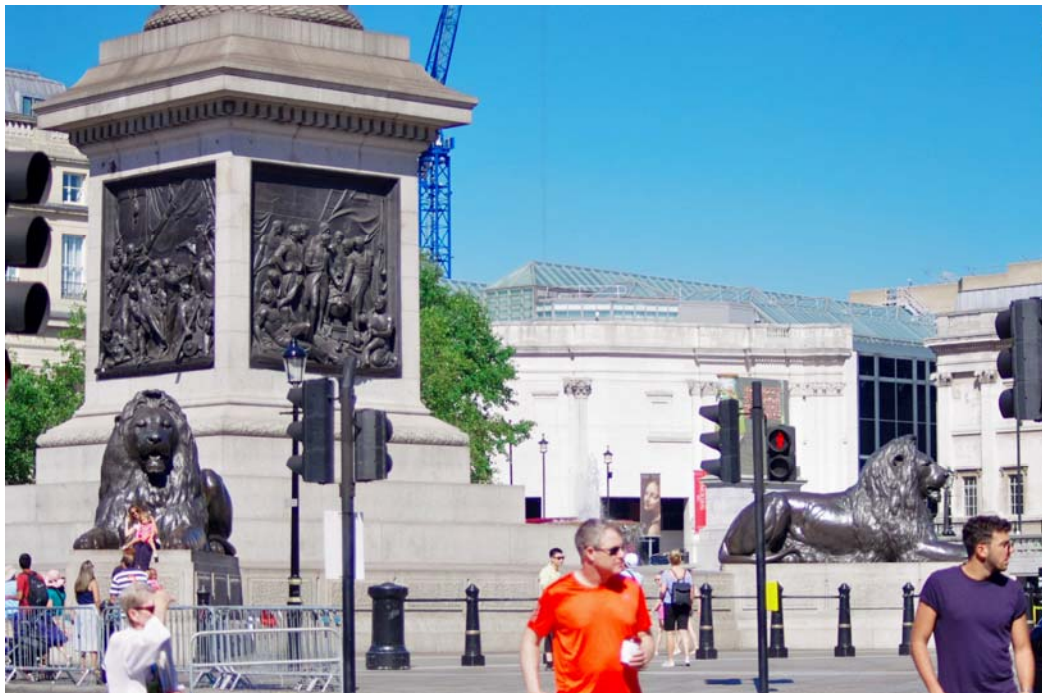


車内の様子です。エレンバラ・パークとは雰囲気は違いますが、せっかくのイギリスです。お茶にしましょう。

二階建てバスで訪れる場所の一つにトラファルガー広場があります。車と人でいっぱいの交差点ですが中央に高さ 55 メートルの塔があり銅像がそれに乗っています。ネルソン記念柱です。



ネルソン提督はトラファルガーの海戦でナポレオン軍に勝ったのですが自身は戦死してしまいました。ナポレオンと戦うことがどんなに大変か分ります。ネルソンは国を救った英雄として讃えられました。



左のレリーフがある建造物が記念柱の台座です。海戦の様子が描かれたレリーフがはめ込まれて、それを4頭のライオンが守っています。さてこのライオン、どこかで見たことはありませんか？

はい、その通りです。待ち合わせによく使われる、三越のライオン。あのライオンのモデルがこのトラファルガー広場のライオンだそうです。思わずシャッターを押しました。

6. 7 日目

ロンドン→羽田

9:30 発の日本航空 42 便に乗るために朝早くたってヒースロー空港に向かいます。出国時の検査は軽いのですが高額土産品の税金返却手続きは時間がかかるため油断が出来ません。朝が早いので朝食にランチボックスをご用意します。出国エリアまで進むと食事が出来るお店も開店し始めます。



機材はボーイング 787-8 の予定です。787 は「ドリームライナー」という愛称を持つボーイングでは一番新しい機体で、東レ製のカーボン複合材を多用して重量が軽いのが特徴。おかげで速度が速く、航続距離が長いというメリットがあります。乗客としてのメリットは天井が 20 センチほど高いこと、窓が大きい(往路で乗った 777 の 1.3 倍)ことなど快適性が上がっています。

羽田到着は朝の 6:25 の予定です。お疲れ様でした、ご自宅までもう少し。気をつけてお帰り下さい。



豆知識 1.《チップについて》

食事等団体行動でチップが必要な場合はまず無いと思います。但し枕銭は 1~2 ポンド程度。特別にこちらの要望を聞いてもらった時、特に良いサービスを受けた時、ホテル・タクシーなどで荷物を運んでもらった時には 2 ポンド程度を払うのが良いと思われます。チップを払う場合は 10%程度とお考え下さい。

豆知識 2.《商用電源について》

BFタイプ



イギリスは壁のコンセント穴の規格がいろいろありますが、今回のホテルはどこも角穴 3 つの「BFタイプ」と呼ばれるものでした(イギリスで買うときは「Gタイプ」です)。ヨドバシ等の家電量販店で「BF 変換アダプター」と言って買います。1 個 350 円から 450 円くらいで手に入ります。お持ちになる電気器具によって 1~2 個ご用意頂くと便利です。

次に電圧について、イギリスの一般商用電源は 240V です。日本製のカメラ用バッテリー充電器は 240V まで耐える物が多いのですが、日本国内専用充電器(タブレット端末やスマートフォン用等)や日本から持ち込んだ一般の電気器具は、変圧器を使って電圧を下げないと使えないものがあります。お持ちになる電気機器の耐電圧をお調べ頂き、100 ボルトまででしたら変圧器が必要になります。

豆知識 3. 《旧 10 ポンド札について》



昨年、最も流通している 10 ポンド札が新しいプラスチック製の 10 ポンド札に変更され、使えません。両替も銀行以外ではできなくなりました。上の写真の下側のお札がそうです。もし最近両替した物ではなく、紙でできた旧券をお持ちの方は、出発前に新券にご両替しておくことをお勧めします。



現行の 10 ポンド札、下の左側は表、右が裏です。20 ポンド札は変わっていません。違いがすぐ分るのは左下の表側の左、右下の裏側の右部分にプラスチックの地が出ていて、そこが透明になっていることです。



ご覧のように透明の部分から向こうの明かりが透けて見えるのがお分かりになるでしょうか？これが新しいほうのお札です。

東京シティではスターリングポンドの即日両替は出来ませんが数日のお時間を頂けば両替可能です。

豆知識 4. 《現地気候について》

イギリスは、北海道の緯度にあります。暖流の海流のおかげでそこまでは寒くはありません。そうは言っても東京の気候に比べれば1段寒い仕度が必要です。コートや薄手のダウンコート、ダウンベスト、フリース等の防寒衣料をご用意下さい。

豆知識 5. 《残っているイギリスのマナー》

日本以外他の国で経験したことがありませんが、イギリスで経験しました。ドアを通った後、後に続く人のためにその人が手を掛けるまでドアを押さえておくというマナーです。イギリス人がやるので、こちらもやると、かなり大きな声で「サンキュー」と礼を言われました。気持ちが良いです。

列は窓口がいくつあっても、1列に並びます。列は、お土産品の税金返還手続きでどうしても並ばなければなりません。その列の先頭の人が開いた窓口に行くという並び方です。この列は「キュー(queue)」というそうです。

◆平成30年のイギリス旅行、是非ご参加下さい！！

【実施日程】 第1班 10月23日(火)～10月29日(月)

第2班 11月 8日(木)～11月14日(水)

【募集人員】 75名 ※最小催行人数 各班について 15名

【旅行代金】 580,000円(2名1室ご利用の場合の1名様分)

*上記料金には、燃油特別付加運賃・各国航空諸税を含みます。

但し、原油価格および為替レートに大幅な変動が生じた場合は、追加代金を申し受けます。

3名一室の設定はございません。

【1名様で1室をご利用の場合】追加料金80,000円(5泊分)がかかります。

【募集締切】 各出発日の42日前まで

【利用航空会社】日本航空（2レターコード：JL）

【ビジネスクラス利用の場合】（追加手配・代金についてはお申し込み後の手続きとなります）

追加代金：約65万円～70万円前後（先着順）

【旅券残存必要期間】 出国予定日より3ヶ月以上

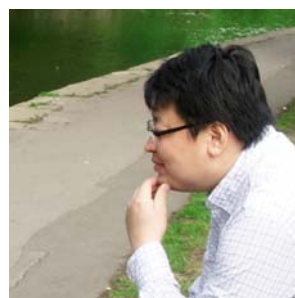
*上記料金は出発まで期間があるため、変更になる場合があります。

〔 調査・調整 〕

東京シティ信用金庫 理事地域戦略統轄本部長 渡邊 正之



名鉄観光サービス（株） 東京中央支店 営業係長 東崎 英行



（ボートン・オン・ザ・ウォーターで人生について考えているところです。）



<http://www.shinkin.co.jp/to-city/>



(バッキンガム宮殿の騎馬警官隊)

バッキンガム宮殿、午前 11 時の衛兵交替式の前に、観光客には目立つこと無くひっそりと騎馬警官隊が宮殿の警護に出発します。10 名程度の分隊規模ですが、甲冑に身を包んだ現代の騎士たちです。

*copyright (c) 2018 Tokyo City Shinkin Bank